



保護者の皆様に感謝

響流の森のゲート一新

3日(土)に、今年度の最後の「らいおん組」の活動を終わりました。子どもたちに長年、親しまれていたアニメ風の響流の森の入口ゲートが、老朽化して色褪せ、子どもたちの粘土作品も剥がれ落ちていました。そこで、新しいゲートに一新したいが、いいアイデアはないものかと思案していたところ、年中の芹野さんがその方面に詳しいということで、デザインを担当していただきました。芹野さんは、響流の森の自然に相応しいゲートをデザインされ、お兄様の参加も含めて、12名のお父さん方によって、かつての門が撤去され、新しいゲートを設置していただきました。今月末、転勤される方の送別会で、今年度の活動に終止符を打つ予定です。



図書&給食ボランティアのお母さん方に感謝

今年も一年間、子どもたちの図書の貸し出しのお手伝いや、読み聞かせ講座を運営していただいたボランティアの皆さんに感謝申し上げます。皆さんの地道な活動により、図書の貸し出しも順調で、絵本を好きな子が増えています。図書室も、毎日、子どもたちが利用しています。

給食ボランティアのお母様方も、雨の日、暑い夏の日、雪の日と天候に関わらず、給食の度に、子どもたちに給食の配膳をしていただきました。お別れパーティの給食を最後に、一年間の活動を締めくくられました。さまざまな形で、保護者の皆様にご支援いただき、感謝申し上げます。来年度もご支援とご協力をお願いいたします。



今年度、最後の誕生会

5日(月)に、2月と3月生まれの子どもたちを祝う誕生会をし、今年度の誕生会を無事に終わることができました。いつものように、保護者の皆様に子どもたちの成長の様子をご覧になっていただき、子どもたちも大喜びでした。

年中クラスでは、「お母さんから抱っこしてもらおう」というのがありました。駆け足でお母さんの胸に飛び込み、甘える子どもたちを見ると、大きくなったとはいえ、まだまだ、幼児なんだなと思いました。しかし、しっかりと抱きしめられるお母さんの顔にも喜びが溢れ、美しい光景でした。

さて、本園では、ご存じの通り、本好きの子どもたちを育てるために、読み聞かせや素話に力を入れています。誕生会でも先生からのプレゼントの一つに「素話」を取り入れています。昨年度までは、青沼先生という大きな存在がありましたので、全てを先生にお任せしていました。また、職員は、青沼先生がおられるので、しり込みする傾向にありました。しかし、昨年度末を最後に定年退職されると分かっていましたから、その後に備えて、昨年度途中から、職員が、素話を受け持つようにしました。

今年の誕生会では、全て担任の輪番制で素話をするようにしましたが、如何だったでしょうか？

やはり「習うより慣れろ」ですね。職員も、経験を重ねるうちに、抑揚、強弱をつけ、子どもに語り掛けるように話せるようになり、上手くなったと私なりに自画自賛をしています。子どもや保護者の皆様に信頼される教師になるためには、教師の指導力向上は必須です。たかが素話、されど素話です。子どもに感銘を与えるような話し方を身に付けてほしいと考えています。次年度も、誕生会を始めとして子どもの前に立つ機会があれば、素話の回数を増やしていきたいと考えています。当日は、最後の誕生会なのに、登園前に大雨が降り、年少の教室棟が停電、電話が不通になり、心配しましたが、全員無事に登園し、問題もなく皆で祝うことができ、幸いでした。

